

みずから強くなる防災・減災の取組

水害の経験から学ぶ

●問合せ先 総務課防災安全係 ☎72-2111

近年、全国各地で甚大な被害をもたらす豪雨災害が多発しています。平成30年7月豪雨では、小郡市でも、観測史上最大となる降雨量を記録し、各所に大きな被害をもたらしました。

市はこの経験を踏まえ、情報の伝達手段を増やすなど対策を進めています。しかし、災害から身を守るには、みずから災害への備えや情報収集を行うことが大切です。日頃から防災対策に努めましょう。

(平成30年7月、宝満川の水位が上昇し、越水が確認されました)

避難

「避難」とは、避難所に行くことだけでなく、災害から自分の命を守るための行動です。以下のことに注意して安全な避難を心がけましょう。

事前の備え

避難場所・避難経路の確認



最寄りの避難所や、安全な避難経路を確認しておきましょう。洪水や台風といった災害の種別によって、学校、コミュニティセンター、集会所など開設する避難所が異なります。ハザードマップや市ホームページでご確認ください。



ハザードマップを更新！

- ①水防法の改正により、宝満川の洪水浸水想定区域を見直しました。
- ②平成30年7月豪雨の課題を踏まえ、右のとおり避難所を一部変更しました。

避難所名	変更前		変更後	
	洪水	内水氾濫	洪水	内水氾濫
小郡市生涯学習センター	○	○	×	×
シルバー人材センター	○	○	×	×
緑の里くろつち会館	○	○	×	×

連絡手段の確認

災害時に家族と一緒にいるとは限りません。また災害時は電話が繋がりにくくなり、連絡が取れない場合があります。家族が集まる場所を事前に決めておき、災害時伝言ダイヤル(171)や災害用伝言版など、複数の連絡手段を確認しておきましょう。

※災害の種別や地域によっては、屋内の安全な場所に移動することも避難の一つです。また、避難しても「何も起きなかった」と考えるのではなく、「何も起きなくてよかった」と考えるようにしましょう

地域のつながり

一人暮らしの高齢者や体が不自由な人は、日頃から近所の人、民生委員、介護従事者などと交流を図り、災害時に対処してほしいことを事前に伝え、地域で協力しながら助け合いましょう。



防災グッズの準備

懐中電灯、携帯ラジオ、救急薬品、衣類、非常用食品、飲料水など、持ち出すものをまとめておきましょう。



災害情報の収集

正しい情報の収集は、災害から身を守るための大切な手段の一つです。災害時には情報が交錯することから、さまざまな手段で最新の情報を収集することが重要です。市は防災行政無線、ホームページ、フェイスブック、広報車による巡回などで情報を発信していますが、次の手段でも情報の収集ができます。

●緊急速報メール（エリアメール）

市内にあるドコモ・au・ソフトバンクなどの携帯電話に避難勧告などの緊急性の高い災害情報（避難所の開設情報など）を一斉送信するシステムです。登録は不要ですが、設定方法など、詳しくは各携帯電話会社にお問い合わせください。

●防災メールまもるくん

県内の地震、台風、大雨などの注意報・警報情報をメールで受信できます。また、震度5弱以上の地震が県内で発生した場合、事前に登録したメールアドレスに対して、自分の安否を知らせるメールを配信できます。



●Yahoo! JAPAN防災アプリ

ヤフー株式会社と協定を結び、ヤフー防災アプリを通じて、アプリ利用者へ緊急情報を配信できるようになりました。ヤフーと小郡市からの情報を同時に取得できます。



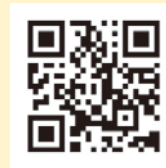
Android版



iOS版

●川の防災情報

川の水位や河川沿いに設置しているカメラ映像などを、インターネットを通じてリアルタイムで配信しています。避難情報が出る前に川の水位などを確認することで、早めの行動につながります。



●防災行政無線

防災行政無線の放送内容を電話とホームページで確認できるようになりました

- ①電話<☎050-5212-5256>自動音声で確認することができます。
※24時間以内に配信した最新の情報のみ確認できます
- ②ホームページ<<http://ogori-city.site.ktaiwork.jp>>

放送内容が聞き取りにくい場合は、ぜひご利用ください。

避難のタイミング

国の避難勧告などのガイドラインの改正により、避難情報に新しく「警戒レベル」が追加されました。情報の意味を直感的に理解できるよう、防災情報を5段階の警戒レベルに分け、とるべき行動を明示しました。

警戒レベル	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
避難情報など	警報級の可能性	注意報	避難準備 高齢者等避難 開始	避難指示 (緊急) 避難勧告	災害の発生 (可能な範囲で発表)
とるべき行動	災害への心構えを高める (最新の気象情報などに注意)	・自らの避難行動を確認 ・避難場所や避難経路、避難のタイミングなどを再確認 ・避難情報の把握する手段を確認	・避難に時間のかかる高齢者などは避難を開始 ・その他の人は避難準備を開始	・速やかに避難 ・直ちに命を守る行動をとる	・既に災害が発生しており、命を守るための最善の行動をとる